

Company profile



MARUJUN

技術で夢を

-Make our dreams by Technology-

2019年3月12日

名古屋証券取引所 市場第二部
証券コード：3422



1. 会社概要

- ・概要
- ・沿革
- ・事業概要
- ・国内、海外拠点

2. 決算概況

- ・連結決算の概況

3. 中長期 5 か年ビジョン、経営計画

- ・振り返り
- ・中長期ビジョン
- ・中長期事業戦略（主旨）
- ・事業戦略
- ・数値計画

【参考】投資家の皆様へ

- ・株価の推移
- ・配当について



社名	株式会社 丸順
創業/設立	1952年7月1日創業/1960年1月4日株式会社設立
本社	岐阜県大垣市上石津町乙坂130番地 1
代表者	代表取締役社長 齊藤 浩
従業員数	単体 309名/連結 2,383名（2018年3月31日現在）
株式	名古屋証券取引所 市場第二部
資本金	19億5,086万円（2018年6月22日現在）
事業内容	自動車用車体プレス部品製造 自動車用精密プレス部品製造 各種金型の設計・製作 治具・検具の設計・製作



1952年 7月

丸順精器工業を創業。自動車車体用プレス金型の製作を開始。

1960年 1月

丸順精器工業株式会社を設立。

1963年 4月

本田技研工業株式会社と自動車部品用プレス金型の取引開始。

1997年 5月

株式会社丸順に社名変更。

1999年 2月

名古屋証券取引所市場第二部に上場。

2003年 8月

上石津工場に3000tトランスファープレス及び800tブランキングプレスを導入。

2017年 5月

東プレ株式会社と資本業務提携を締結。



Topre



MARUJUN

事業概要①～一貫生産体制～

5/26

開発→設計→金型・治具・検具製作→量産まで
全てのものづくり工程を一貫して対応

研究開発

高強度・高剛性なハイテン材の加工をはじめとする次世代のものづくりのためのさまざまな研究開発

MARUJUN の一貫生産体制

エンジニアリング

金型事業

あらゆる種類の金型づくりを、海外拠点と連携しグローバルに展開

超高張力
鋼板対応



社会
ニーズ

環境
ニーズ

軽量化

-高強度・高剛性-
ハイテン材
(超高張力鋼板)

部品生産

Body部品事業
電動化部品事業

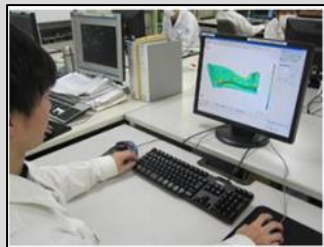
蓄積したノウハウと最新の加工技術を融合した、高品質で高効率な生産体制を構築

高効率



2 打点同時溶接機

研究開発



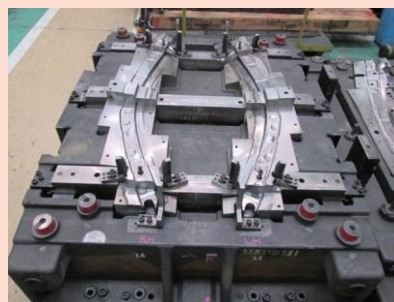
65年続く金型事業
のノウハウ蓄積

独自
技術



技術
深化

様々な研究開発に
取り組み、
安全と信頼を提供



金型：フロントインナーアッパーヒール

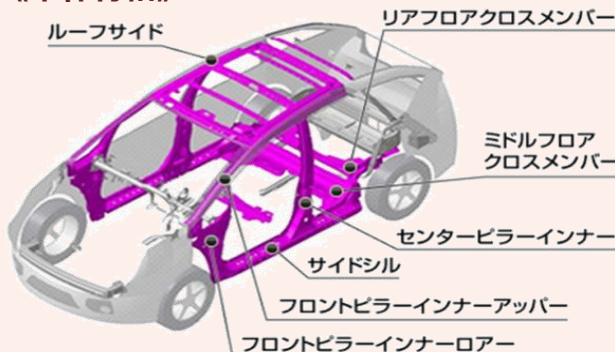


検具：ヒールリアフロア



溶接治具：PCUケースアッシー

《車体骨格》



《機能部品》

ステアリングハンガービーム

フードヒンジ

フードロック

テールゲートヒンジ

フューエル
フィルターパイプ

ハンドブレーキ

トランスミッション断面図

クラッチプレート

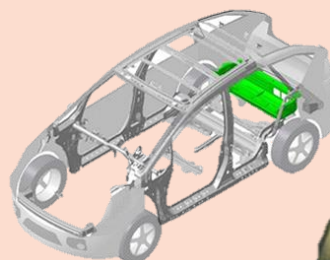
クラッチハブ

プラネタリキャリア

クラッチドラム

クラッチピストン

ハイブリッドカー部品の心臓部である、バッテリー及びPCUのカバー部品



エンジニアリング
事業

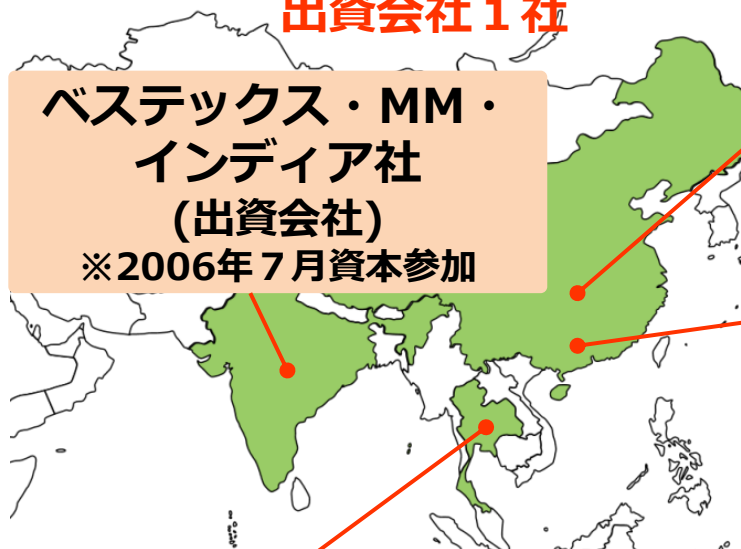
ボディ部品事業

精密・電動化
部品事業



【海外拠点】子会社3社、
出資会社1社

ベステックス・MM・
インディア社
(出資会社)
※2006年7月資本参加



タイ・マルジュン社
(子会社)※1994年7月設立



FUEL TANK



＜主力製品＞
インフレーター、FUEL TANKなど

武漢丸順汽車配件有限公司
(子会社)※2003年10月設立



バンパービーム



＜主力製品＞
ステアリングハンガービーム、
バンパービームなど

広州丸順汽車配件有限公司
(子会社)※2001年11月設立



ステアリング
ハンガービーム



＜主力製品＞
ステアリングハンガービーム、
フィラーパイプなど

【国内拠点】5拠点



栃木開発
センター

浅西工場

養老工場

鈴鹿工場

※2018年2月より稼動

本社・
上石津工場



1. 会社概要

- ・概要
- ・沿革
- ・事業概要
- ・国内、海外拠点

2. 決算概況

- ・連結決算の概況

3. 中長期 5 か年ビジョン、経営計画

- ・振り返り
- ・フィロソフィ刷新、新フィロソフィ
- ・中長期ビジョン
- ・事業戦略
- ・数値計画

【参考】投資家の皆様へ

- ・株価の推移
- ・配当について



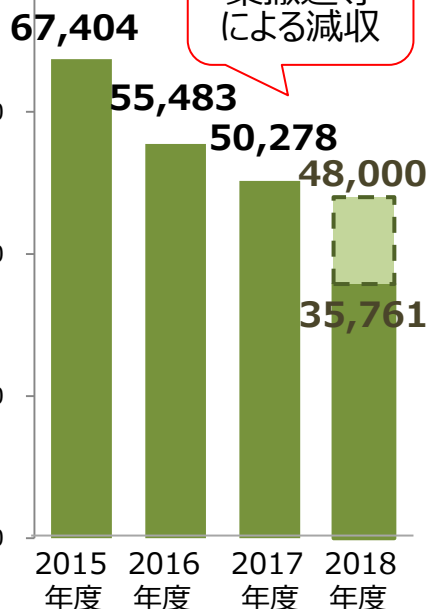
売上高

50,278百万円

前年同期比▲9.4%

(単位：百万円)

不採算事業撤退等による減収



第3四半期実績
通期予想

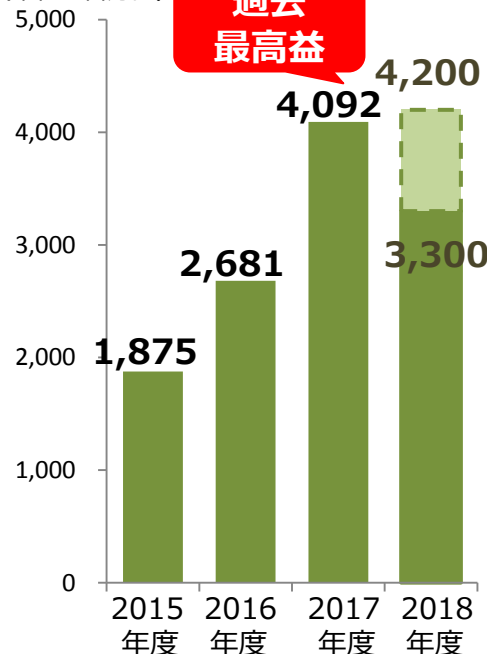
営業利益

4,092百万円

前年同期比+52.6%

(単位：百万円)

過去
最高益



第3四半期実績
通期予想

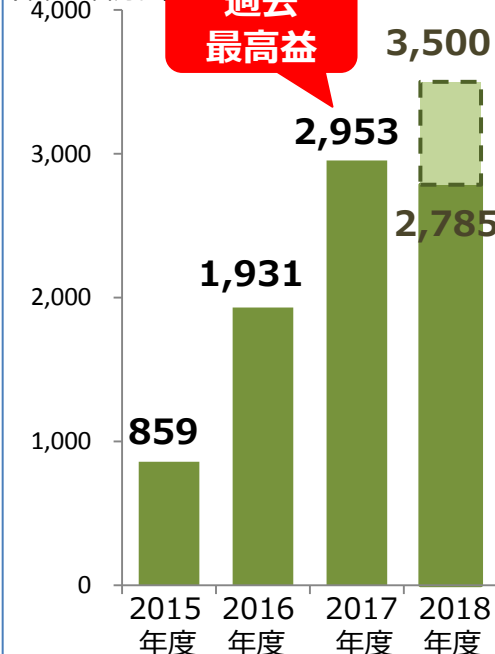
経常利益

2,953百万円

前年同期比+53.0%

(単位：百万円)

過去
最高益



第3四半期実績
通期予想

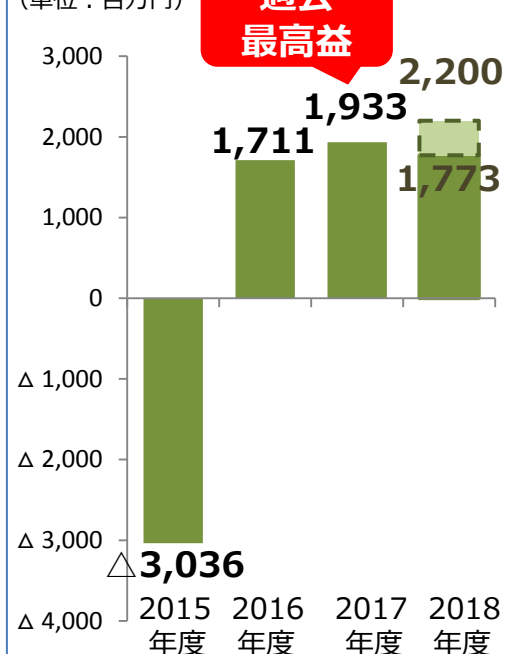
親会社株主に帰属する 当期純利益

1,933百万円

前年同期比+13.0%

(単位：百万円)

過去
最高益



第3四半期実績
通期予想

営業利益、経常利益、純利益の全ての利益において、2期連続で過去最高益を更新
2018年度においても、順調に推移（第3四半期時点で各利益最高益）



1. 会社概要

・概要 ・沿革 ・事業概要 ・国内、海外拠点

2. 決算概況

・連結決算の概況

3. 中長期 5 か年ビジョン、経営計画

・振り返り ・中長期ビジョン
・中長期事業戦略（主旨） ・事業戦略 ・数値計画

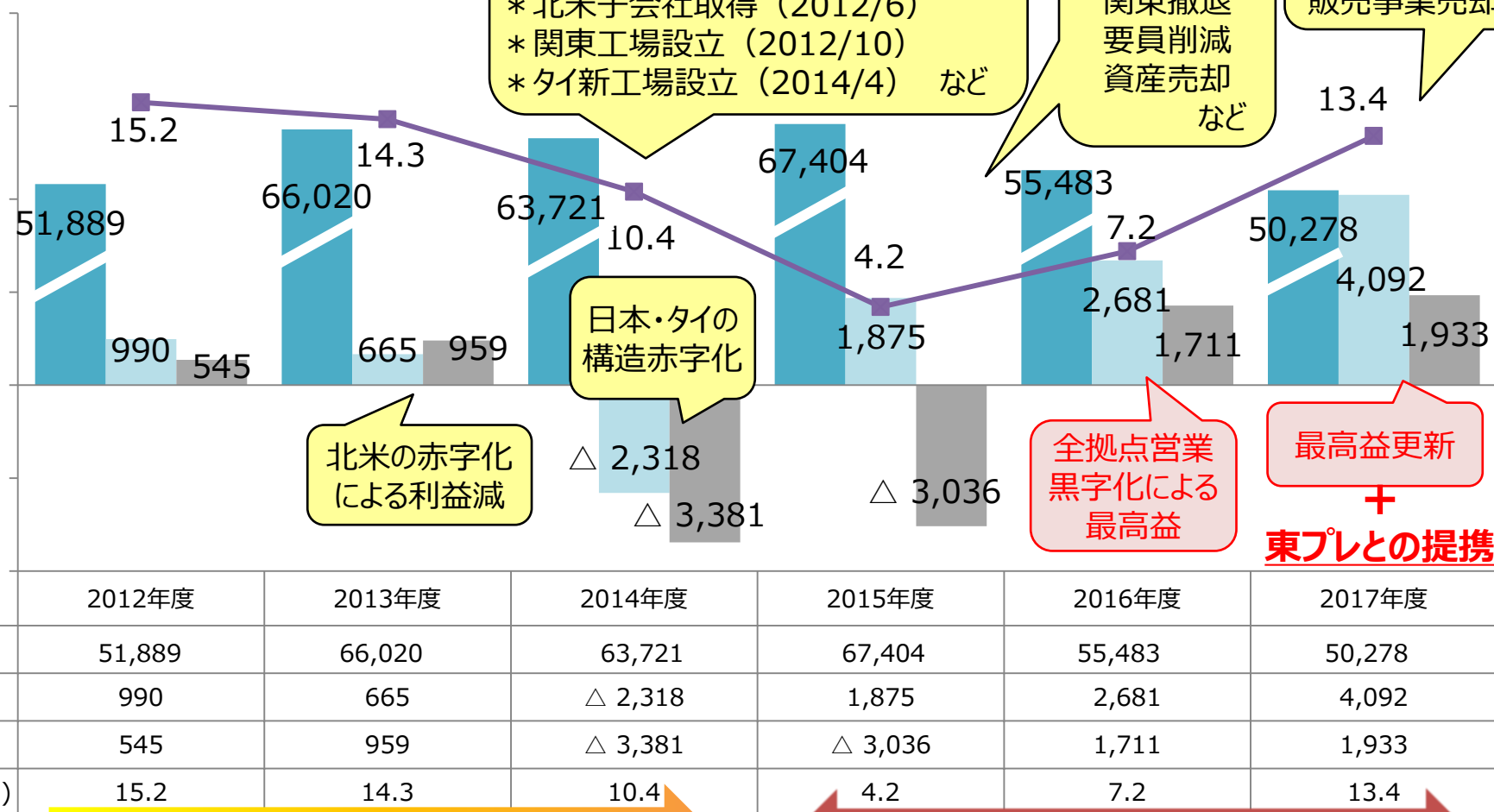
【参考】投資家の皆様へ

・株価の推移 ・配当について



【経営悪化の要因と構造改革の推進】

(単位:百万円)



経営悪化

事業構造改革期間

構造改革による利益改善 + 東プレとの提携 で更なる競争力向上を目指す

【中長期ビジョン (2019年3月期-2023年3月期)】

中長期ビジョン

技術で夢を

- *Make our dreams by Technology* -

自動車の**軽量化・電動化**の領域で、
お客様に**圧倒的な技術力**で貢献し、
競争力基盤・財務体質の向上を目指す

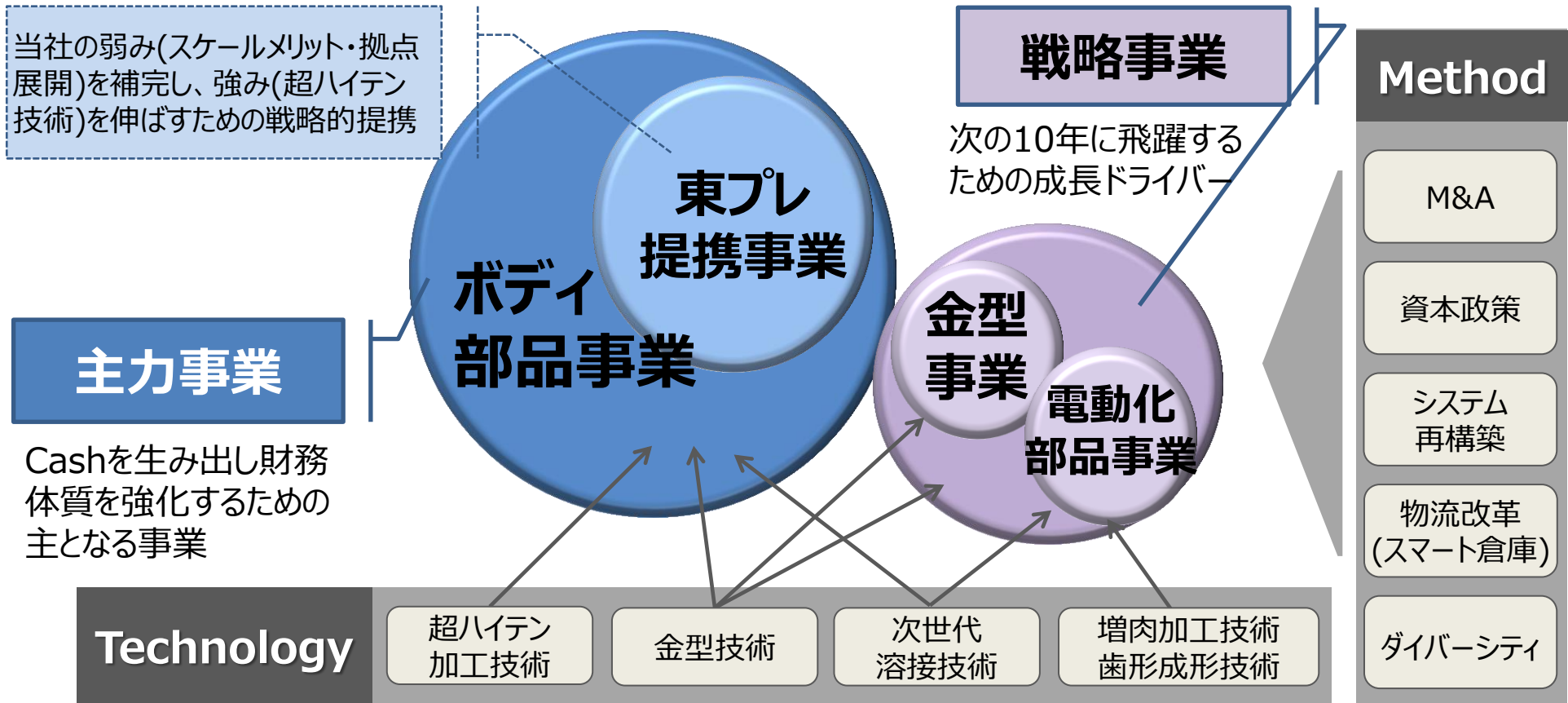
中長期事業戦略

1. 東プレ(株)提携シナジー最大化による財務体質強化
2. グローバルでの金型事業の強化・拡大
3. スーパーハイテン技術の競争力強化
4. 電動化関係部品の受注拡大
5. 全ての業務の管理手法（見える化）再構築とシステム化
6. 人材の「人財化」

2023年3月期
連結目標値

- 営業利益率 9%以上
- 自己資本比率 40%

グループ中長期5か年ビジョンを明確にし、
連結目標値の達成に向け、6つの事業戦略を強力に推進



- **ボディ部品事業**では、超ハイテン部品の量産化を加速させるとともに、東プレ(株)との提携で日本及びアジアにおいて受注拡大・競争力の強化を図る
- **金型事業**及び**電動化部品事業**を戦略事業と位置づけ、特に日本及び中国において飛躍的な売上拡大を図る
- **財務体質を強化**するために自己資本の強化を図る



【資本業務提携の概要】

- ・構造改革のやりきりにより業績はV字回復を果たしたものの、過去の膿出しにより自己資本は減少
- ・競合他社（日系、メガ系、海外ローカル）に対する受注競争力の向上が課題

財務体質の強化 + 中長期的な成長戦略の加速

2017年5月11日
東プレ株式会社との資本業務提携を発表

- 東プレ(株)が当社株式の19.99%を取得し、当社は東プレ(株)の持分法適用関連会社になった。
- 120万株の公募増資及び30万株の東プレ(株)を割当先とする第三者割当増資を行うことを決議・実施。
(持株比率変更なし) (2018年5~6月)

【東プレ株式会社 会社概要】

社名	東プレ株式会社(Topre Corporation)	設立	1935年4月30日株式会社設立
資本金	56億1千万円 (2018年3月末現在)	株式	東京証券取引所市場第一部上場
売上高	連結：1,911億8千9百万円 単独：1,099億7千5百万円(2018年3月期)		
事業所	工場/相模原、広島、栃木、岐阜、埼玉、福岡(関連会社)等		
関連会社	国内/8社、海外/6社(中国、タイ、インドネシア、インド、アメリカ、メキシコ)		
事業内容	自動車用板金プレス製品の開発・製造及び販売、冷凍冷蔵車の開発・製造など		

提携メリットを十分に活用し、財務体質強化・中長期的な成長戦略の強化を推進



【提携メリット】

- ①販路拡大—互いの主要取引先へ販路を拡大
- ②技術力強化—得意技術の共有・活用により相互の技術力を強化
- ③生産拠点の補完—両社拠点の有効活用による、グローバル競争力の強化



【提携シナジー進捗状況】

生産

生産及び金型調達の補完

- 新生産拠点設立 ※日本/鈴鹿工場
- 日産自動車・三菱自動車向け受注確定自動車部品・金型（東プレから）※日本
- Honda及びその他の日系自動車メーカー自動車部品・金型の受注が決定 ※タイ

人材

人材交流と経営ノウハウの共有

- 東プレより当社へ幹部2名を受け入れ
 - ⇒ 受注競争力の強化
- ⇒ 生産・原価管理等のノウハウ共有
- 当社の営業2名を東プレへ派遣
 - ⇒ 受注競争力の強化

東プレ × 丸順

購買

共同購買の検討・推進

- 自動車部品関連から日用消耗品関連に至るまで、調達先や調達価格等の整合を実施

技術

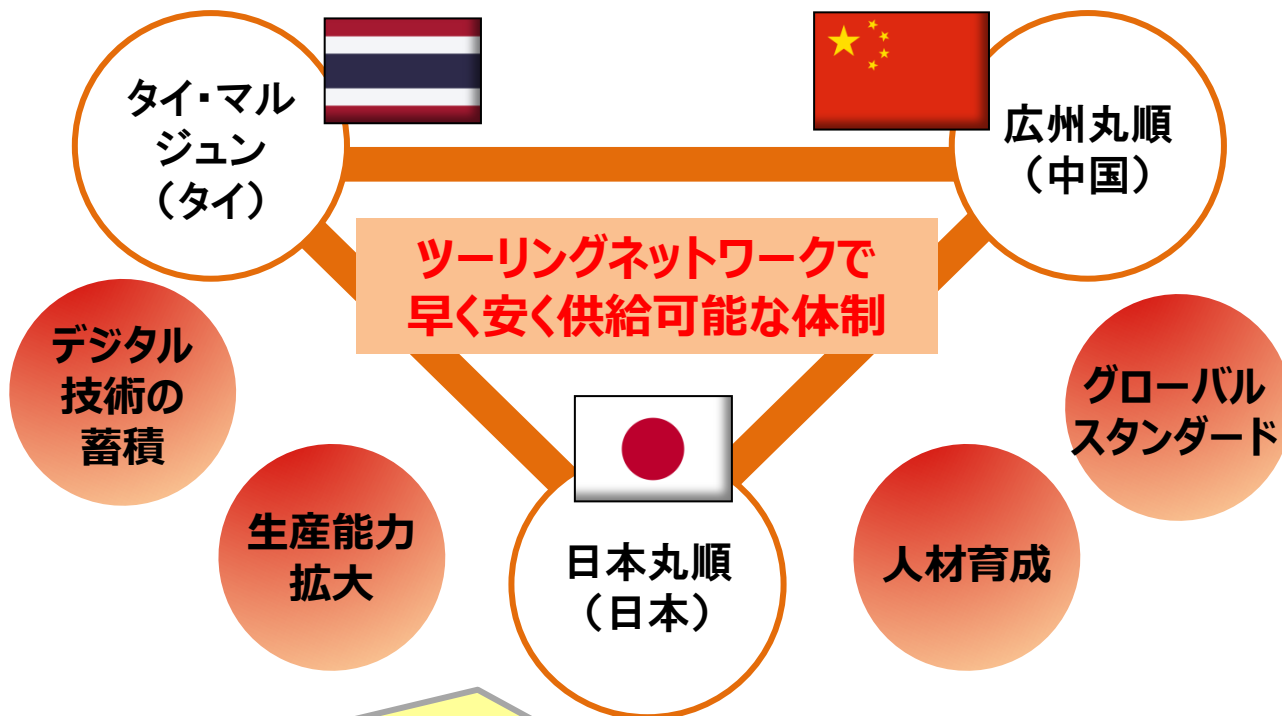
技術領域における人材・保有技術等の交流

- 定期的に工場視察・技術交流懇談会を実施
 - ⇒ 相互の長所を吸収し、自社へ反映
 - ⇒ 客先向けに共同で技術提案を実施

生産・人材・購買・技術など各領域で順調に推進中



【グローバルネットワーク】

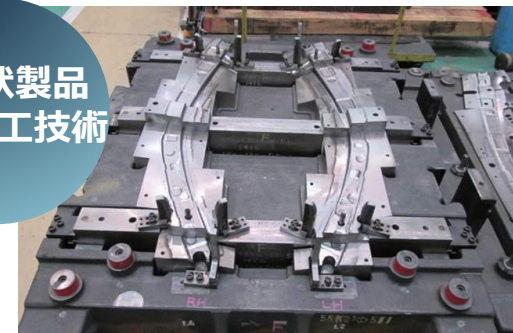


超ハイテン材
加工の金型



成形難易度が高い超ハイテン材
の部品を生産するための金型

異形状製品
同時加工技術



異板厚、異材料、異形状の
同時加工も可能

- 海外金型拠点という他社にない強みを生かしたグローバルネットワークを確立させ、**グローバルでの受注拡大を図る**。
- **日本有数の金型メーカー**を目指す。※売上50億円(海外含めて80億円)、営業利益5億円(海外含めて8億円)を目指す。

日本、タイ、中国の3極における金型製作・調達能力を有機的に連携させ、
金型事業の強化・拡大を図る

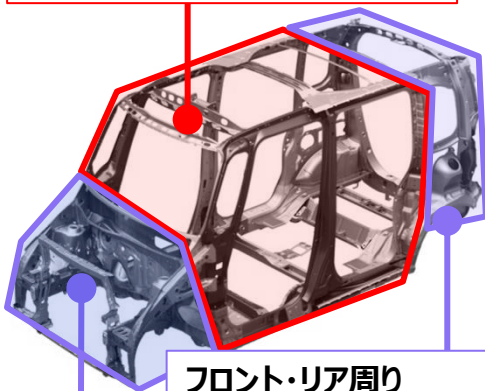


【自動車ボディに使われる鋼材】

キャビン周り (客室周りにある骨格)
衝突時、乗員を守る部分で
潰れてはいけない

外板部品

ドアや、ボンネットなど、
デザインが重視される部分



フロント・リア周り

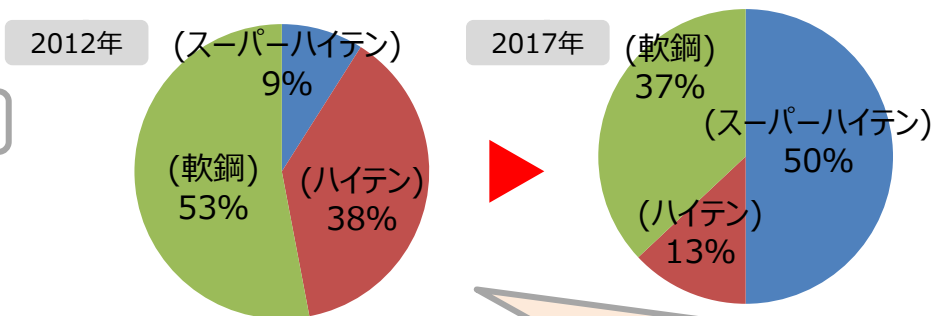
衝突時、ある程度潰れて衝撃を吸収する部分



【軽量化の効果とハイテン材】



自動車業界では環境に配慮した低燃費の自動車の開発が進んでおり、
**軽量化・車体剛性を両立させるスーパーハイトン材への移行は
欠かすことができない課題**



スーパーハイトンの適用は、
2012年に9%だったのに対し、2017年には**50%まで上昇**

スーパーハイトンは人の命を守る「キャビン(客室)」周りの骨格に使用



【超ハイトン材センターピラーアウターの冷間プレス加工量産化技術】

超ハイトン(冷間材)vsホットスタンプ

	環境 Co2量	コスト	生産性	重量	成形 難易度
冷間ハイトン	○	○	○	○	難
ホットスタンプ	×	×	×	○	易

<冷間ハイトンの製法>

金型で挟んで形状を整える。(加熱・冷却しない)

<ホットスタンプの製法>

鋼板を900°Cに加熱し、金型で挟みながら冷却し形状を整える。

成形の難易度を除けば

ホットスタンプに比べ冷間超ハイトン材はメリットが大きい。

⇨冷間ハイトン材は成形難易度は高いが、オリジナル技術で対応。

<センターピラー（外板）について>

【センターピラーアウター】

※センターピラーは、乗客の安全性を重視する衝突安全機能部品

・従来でのセンターピラー

軟鋼+
ハイトン材外観(割れ・シワ等)精度等の観点から
【外板部品】軟鋼+【内板部品】ハイトン材

・新技術でのセンターピラー

超ハイトン材

【外板部品】1180MPa級超ハイトン材
内部のハイトン補強部品を省略⇨**軽量化**Honda
「N-BOX」本田技研工業株式会社から2017年夏発売された「N-BOX」に1180MPaの超ハイトン材を冷間プレスで加工するセンターピラー外板部品が**世界初**として採用。Honda
「N-VAN」本田技研工業株式会社から2018年夏発売された「N-VAN」に1180MPaの超ハイトン材を冷間プレスで加工するセンターピラー外板部品が採用。
当該部品の採用は、
上記「N-BOX」に続き**2車種目**。2017/10/31
当社開示資料2017/7/10
日刊工業新聞

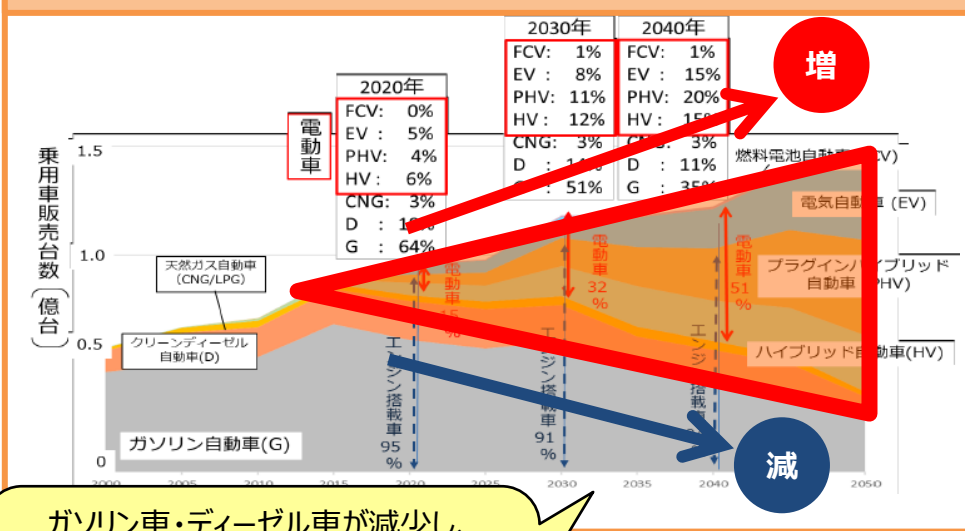
2017年に量産化に成功した1200MPaアウター部品の受注拡大を推進

【自動車業界の動向】

※経済産業省公開資料より抜粋

※EY Japan公開資料より抜粋

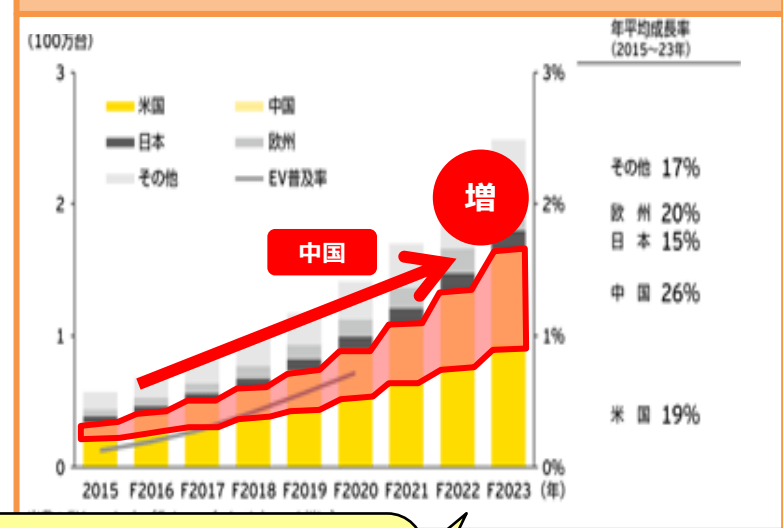
パワートレイン別長期見通し



ガソリン車・ディーゼル車が減少し、
2020年あたりよりEV等の
エコカーの普及が高まっていく。
(エコカーのシェアは、2020年に16%、
2030年に52%の予測)

エコカーには欠かせない
バッテリー関連部品の
需要が高まっていく
見通し。

国別EVの累計販売台数と普及率の予測



<中国のエコカーに関する規制>
2019年に自動車メーカーに
10%の新エネルギー車
(NEV: EV/PHV/FCV)
の製造及び販売を義務化

中国は世界でも
大きな市場へと成長して
おり、エコカーに関する規
制も厳しいことから、急速
なEV化が期待される。

日本における技術の確立

既に受注しているハイブリッド用バッテリーケース・カバーの競争力を高める。

市場の拡大が見込まれる中国で電動化部品受注拡大

中国ではハイブリッド用部品・バッテリーケースの納入がスタート。(現地の自動車・バッテリーメーカー等を通じて)業容拡大を目指す。

新素材、新技術へのチャレンジ

鉄(ハイツ材)を基盤としながらも、アルミ加工技術の研究を進め、鉄とアルミ等による新世代バッテリーケースの開発を推進する。

中国市場の拡大や自動車電動化の波にのり、更なる電動化関係部品の受注の拡大を図る



【電動化関係部品の受注実績】

日本

SUBARU
フォレスター e-BOXER



日産
ノート e-POWER



日産
セレナ e-POWER



中国

ホンダ
CR-V HV

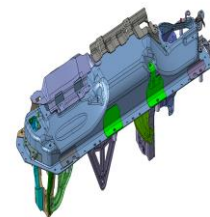


ホンダ
新型SUV車 EV



タイ

ホンダ
ACCORD HV



日本・中国・タイの全拠点で電動化関係部品を受注

【全ての業務の管理手法（見える化）再構築とシステム化】

●原価及び基幹システムの再構築による生産性向上

業務提携先の東プレ(株)のノウハウも活用し、原価の見える化及び基幹システムの再構築を推進。

●スマート倉庫のグローバル展開による物流改革

日本及びタイにて稼働しているスマート倉庫を2018年に広州丸順、2019年に武漢丸順で稼働し、生産・物流の更なる効率化を進める。

●KPI(Key Performance Indicator)方式によるグローバル体質管理の推進

グループ横串の重点管理項目を設定し、月度で進捗管理を行う。



全拠点で稼働予定のスマート倉庫(自動倉庫)

【人材の「人財化」】

●グローバルでの人材採用・育成・活用

部品生産及び金型領域で、海外子会社から日本への逆駐在制度や海外子会社間の派遣制度を推進中。

特に金型技術領域での技術者育成を加速する。

●ダイバーシティ推進

丸順グループにおける女性活躍や海外子会社における現地スタッフの幹部登用の目標値を設定し推進。

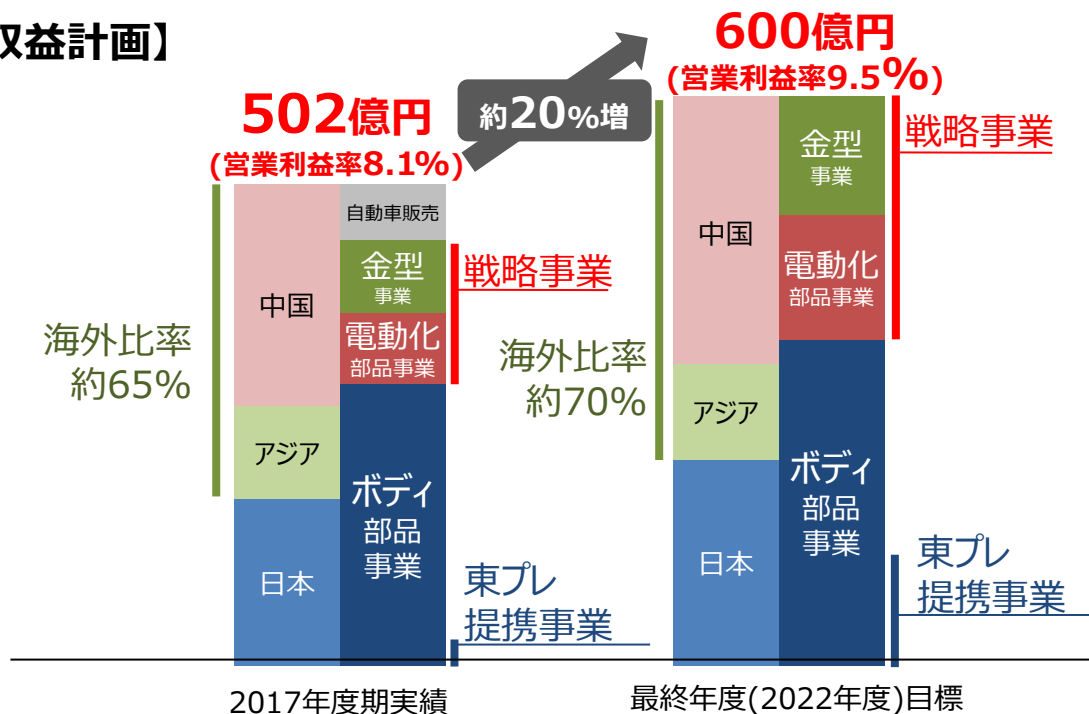


逆駐在制度により日本で金型技術を学ぶ中国・タイの子会社の従業員（上石津工場にて）

ものづくり以外の領域では、経営管理システムの強化を図る



【収益計画】

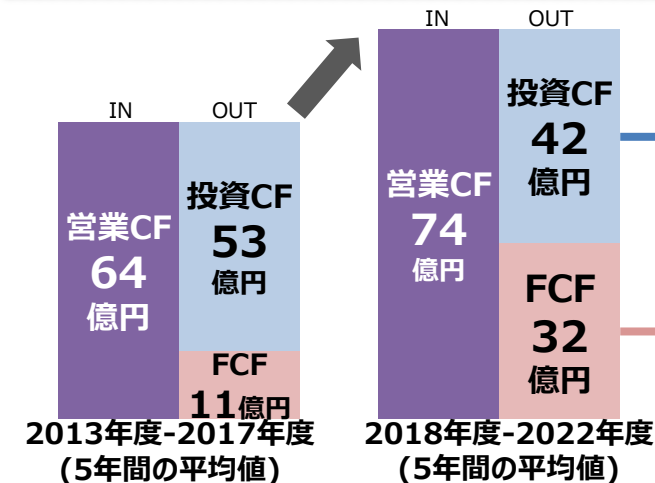


	2017年度実績	2018年度見通し	2022年度目標	2017年度対比
売上高	502億円	480億円	600億円	約20%増
(内) 東プレ提携事業売上高	10億円	30億円	100億円	10倍
(内) 戦略事業売上高	50億円	70億円	150億円	3倍
営業利益率	8.1%	8.8%	9.5%	1.4point増
自己資本比率	13.4%	18%	40%	約3倍

【キャッシュバランスと投資計画】

■ 5年間の設備投資 210億円

- 専用投資 90億円(量産用新機種金型等)
 - 汎用投資 120億円
- <主な汎用投資>
- ・大型トランスファープレス機(日本) ・スマート倉庫(中国)
 - ・金型生産設備(日本・タイ・中国)
 - ・次世代溶接ライン(日本・タイ・中国)



■ 5年間のFCF 160億円

- 有利子負債圧縮→5年間で100億円超圧縮
 - M&A等の原資
 - 配当(2019/3月末復配予定)
- 安定配当を基本としながら、目標に対する進捗度と設備投資とのバランスを考慮の上、更なる株主還元を目指す。



1. 会社概要

・概要 ・沿革 ・事業概要 ・国内、海外拠点

2. 決算概況

・連結決算の概況

3. 中長期 5 か年ビジョン、経営計画

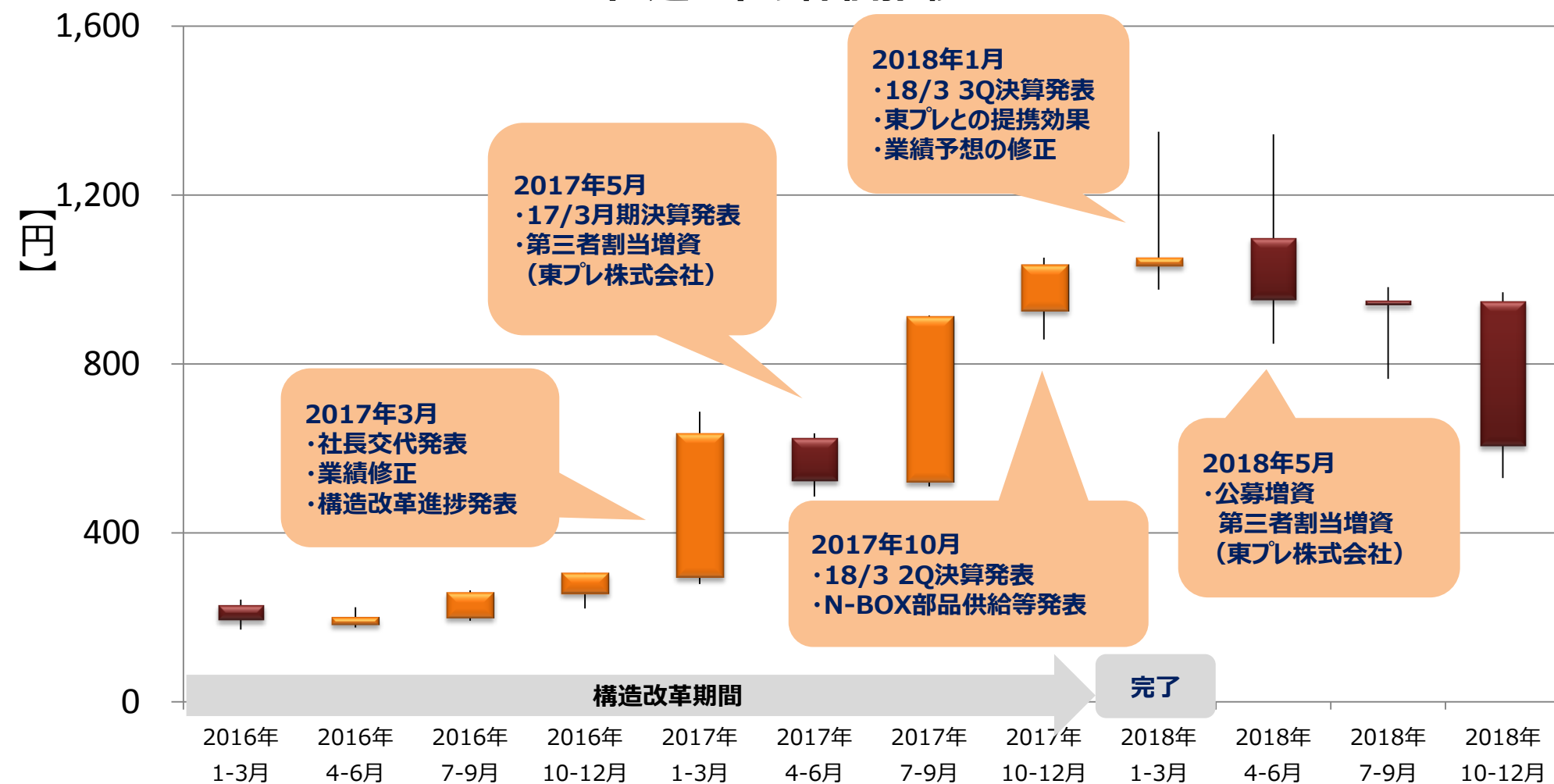
・振り返り ・中長期ビジョン
・中長期事業戦略（主旨） ・事業戦略 ・数値計画

【参考】投資家の皆様へ

・株価の推移 ・配当について



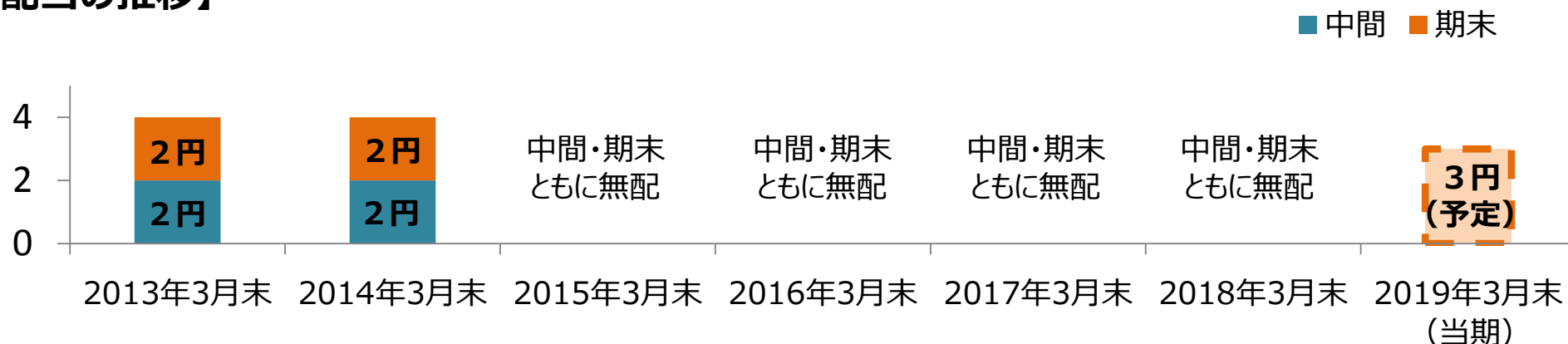
直近3年の株価推移



3年間で株価は上昇。直近の株価は、700円～800円程度で推移



【配当の推移】



【配当の基本方針】

当社は、株主の皆様に対する利益還元が経営の重要政策の一つであると考えており、配当性向、株主資本配当率、内部留保及び今後の業績動向等を総合的に勘案し、長期的視点に立った安定的・継続的な成果配分を行うことを基本方針としております。

【配当予想】

当期（2019年3月期）の配当予想につきましては、当期の業績予想、今後の動向及び配当原資となる個別財務諸表の見通し等を勘案し、1株3円の配当予想とさせていただきました。株主の皆様におかれましては長らく無配となり、大変ご迷惑をおかけいたしました。上記の通りの配当予想とすることといたしましたので御理解賜りますようお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。

MARUJUN

当社ウェブサイトにてIR情報をご提供させていただきます



www.marujun.co.jp

この資料は、株式会社丸順（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。当資料に記載の内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。また、将来に関する記述については、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの内容とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。